



四日市大学留学生新聞 第55号

2025年11月25日(火)発行

編集長 チョウ ギョウゲイ
副編集長 イエー ミン スベディ ススマ テイルワ ビカス
編集委員 スンダス ビサル チャウダリ ビナム クマル
テッ テッ アウン タパ ロジヤン
チャン ティ カン リン リュウ イチドウ
レ ティ フォン ズン レ ティ フォン ザン

【国旗一覧】

中国	
ネパール	
ベトナム	
ミャンマー	

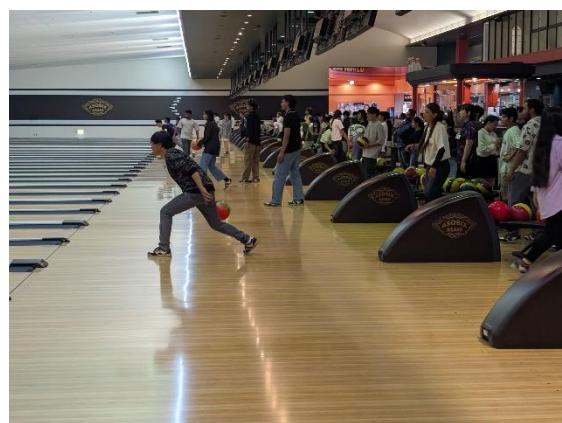
新入生歓迎交流会①



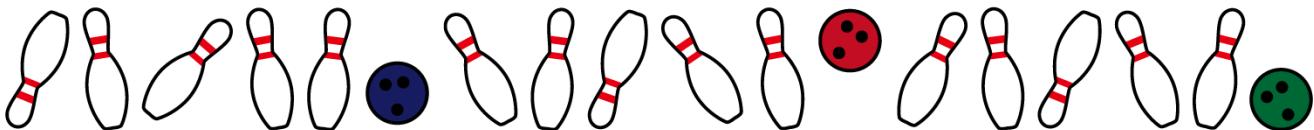
2025年6月13日、朝日町のアソビックスあさひにて新入生歓迎会（ボウリング大会）が開催され、約75名が参加しました。今回は昨年度に続いて2回目の参加で、私は新しい出会いが人を成長させてくれると強く感じました。初めて会う人と話すことに最初は少し緊張もありましたが、ボウリングを通じて笑顔や会話が自然に生まれ、お互いに応援し合ううちに距離が近づく

のを実感しました。去年の自分とは違い、新入生に声をかけたり、アドバイスしたりできたことも嬉しく、自分自身の成長を感じました。

この経験を通して、人とのつながりを大切にし、これからも積極的に交流会に機会を広げていきたいと思っています。



【環境情報学部2年 チャウダリ ビナム クマル 】



新入生歓迎交流会②

2025年6月13日、新入生歓迎交流会が開催され、いろいろな国から集まった約75名の学生がボウリングを通じて親睦を深めました。最初は、初めてボウリングをする学生も多く、少し不安そうにしたり、やり方が分からず戸惑う様子もありましたが、先生やチームの仲間が優しく教えてくれたおかげで、だんだん慣れてきました。

2ゲーム目になると、みんなすっかりリラックス。国籍や学年を超えてハイタッチをしたり、大笑いしたりする姿があちこちで見られました。試合の最後には、得点の高い人に賞品が贈られ、会場は大いに盛り上りました。私はとても楽しく、新しい友達ができるし、次の機会にはもっと上手にプレーして高い点を取りたいと思いました。

この交流会は、新入生が日本での学生生活を明るくスタートさせる素晴らしいきっかけになったに違いありません。

【総合政策学部2年 チャンティカンリン 】

大学祭



10月25日(土)、大学キャンパスで2025年の大学祭が活気に満ちた温かい雰囲気の中で開催されました。学生たちはカラオケ大会、展示、メイド喫茶、模擬店、音楽ライブなど、多彩な企画で来場者を楽しませました。また、お笑い芸人ザブングル加藤さんや森智広市長とのトークショーも行われ、会場は笑顔であふれていきました。特に印象的だったのは、地域の人々が

学生と交流し、大学と地域の絆を深めたことです。さらに、留学生によるベトナム、ネパール、ミャンマーなど各国料理のブースも人気で、国際的な交流の場となりました。今年の大学祭は、学生・地域・世界をつなぐ素晴らしいイベントでした。



【総合政策学部2年 レティフォンザン 】

中国の紹介

中国は広大な国土と長い歴史を持つ国で、地域ごとに多様な文化が息づいています。たとえば、北京では故宮や万里の長城など歴史的建造物が多く、古代中国の栄華を感じることができます。私も故宮に行きました。広くて美しい建物が並び、昔の皇帝の暮らしや文化を身近に感じることができ、とても感動しました。西安では兵馬俑が有名で、中国の始まりともいえる秦の歴史を学ぶことができます。南部の桂林や張家界では、美しい山水風景が広がり、自然の雄大さを楽しめます。また、上海や広州などの都市では、伝統と近代が融合した独特的な景観を見ることができます。食文化も非常に豊かで、四川料理の辛さ、広東料理の繊細な味、北京ダックなど、地域ごとに異なる味わいが魅力です。中国の文化や観光地、食べ物を通して、その多様性と深い歴史を体験することができます。



【総合政策学部 2年 リュウ イチドウ 】

ベトナム紹介



ベトナムは穏やかな人々と豊かな文化、美しい自然に恵まれた魅力ある国です。長い歴史を持ち、旧正月（テト）には家族が集まり先祖を敬うなど、伝統が今も大切に守られています。また、アオザイはベトナム女性の美しさと優しさを象徴する伝統的な衣装として知られています。食文化も多様で、軽く食べられるサン

ドイッヂ「バインミー」は全国的に親しまれ、日本でも人気があります。さらに、ハノイ名物の「ブンチャ」は米麺と香ばしい豚肉、新鮮な野菜を甘酸っぱいタレにつけて食べる、あっさりしながら味わい深い料理です。観光地としては、エメラルド色の海に岩山が浮かぶ世界遺産「ハロン湾」、ランタンの灯りが幻想的な古都「ホイアン」、そして壮大な仏像が並ぶベトナム最大の寺院「バイディン寺」などがあります。歴史、文化、自然のすべてを楽しめる国です。



【総合政策学部 2年 レティ フォンズン 】

留学生オープンキャンパス

2025年7月12日と8月3日に開催された留学生オープンキャンパスに、スタッフとして参加しました。当日は日本語学校の先生や生徒の方々を迎える、学部説明や入試説明などが行われました。私は在校生スピーチの司会を担当し、さらに中国語通訳のサポートも行いました。初めての参加者にとって大学生活が少しでもイメージしやすくなるよ



う、自分自身の経験を伝えることを意識しました。また、私はオープンキャンパスを円滑に進行するため、裏方の準備や調整にも携わりました。スタッフとしての重大な責任と役割を実感しました。

今回の経験を通じて、語学力やコミュニケーション力の向上だけでなく、変化に対応する力やチームワークの重要性を学ぶことが出来ました。

【総合政策学部3年 チョウ ギョウゲイ 】

N1 合格体験記



私は環境情報学部環境情報学科3年生のティルワビカスと申します。私は今年7月に日本語能力試験N1に合格しました。合格のために、大学の授業だけではなく、自分でも本やインターネット、携帯アプリを使って勉強しました。特に「スピードマスターと日本語能力試験対策 45日間で完全マスター」という本を使い、語彙と文法を中心に繰り返し練習しました。また、読解では本にあった文章を毎日読み、漢字の練習をしました。聴解の力を伸ばすためには、YouTubeなどの動画を見て速い日本語を聞き取る訓練をしました。試験の練習はmaaziと言うアプリで

毎日しました。留学生支援センターから借りた教材も大変役に立ちました。こうした学習を通して日本語の理解力と表現力が大きく向上したと感じています。

【環境情報学部3年 ティルワ ビカス 】



留学生「卒業後の在留資格」ガイダンス

日本で働くための在留資格について、初めてしっかり知ることができました。思っていたよりも種類が多く、少し難しかったですが、自分の勉強している内容と仕事の内容が関係していれば、日本で働く可能性があると分かり安心しました。「技術、人文知識、国際業務」という在留資格の話が特に印象に残りました。また、就



職活動の時期や、会社に提出する書類のこと、ビザを更新するときの流れなどの説明もあり、早めに準備することが大切だと思いました。私は日本で働きたい気持ちがあるので、これからもっと日本語を上達させて、面接や履歴書の書き方も練習したいです。今回の話を聞いて、卒業後の生活について少しほのめめができるようになりました。

【環境情報学部 3年 イエー ミン 】



留学生対象の「卒業後の在留資格」ガイダンスに参加し、日本での就職活動や在留資格の変更手続きについて詳しく学ぶことができました。これまで漠然としていた「卒業後の流れ」が明確になり、自分の将来に向けて何を準備すべきかがはっきりしました。特に、在留資格を「留学」から「就労」に変更するためには、内定後に必要な書類や手続きが多く、早めに準備を始めることが大切だという話が印象に残りました。

また、先輩方の経験談を聞いて、就職活動の難しさだけでなく、努力を継ければチャンスをつかめるという希望も感じました。履歴書の書き方や面接での日本語表現、そして自分の強みをどう伝えるかなど、今後の準備に役立つ具体的なアドバイスを得ることができました。

今回のガイダンスを通して、私も今から少しずつ行動を起こし、将来日本で働くように努力したいと思います。大学での授業やアルバイトで学んだ経験を生かしながら、自分の目標に向かって前向きに進んでいきたいです。

【環境情報学部 3年 スベディ ススマ 】



留学生・日本人学生交流研修旅行

9月11日、神戸で行われた「留学生・日本人学生交流研修旅行に参加し、貴重な体験を得ました。まず、ハーバリウム作りでは、色とりどりの花を自分で選び、瓶に丁寧に配置しました。完成した作品は美しく、多くの学生がSNSに投稿するなど、達成感を味わっていました。



昼食後は南京町を散策し、仲間と写真撮影や買い物を楽しみました。最後に訪れた「阪神・淡路大震災記念館」では、語り部の方から体験談を伺い、防災の大切さを深く学びました。短い時間ながら、文化や歴史に触れることで日本への理解が一層深まり、友情を育むことができました。この研修旅行は学生生活の忘れられない思い出となりました。



【環境情報学部2年 スンダス ビサル】

2025年9月11日（木）、留学生と日本人学生による交流研修旅行が実施され、学生61名及び引率教員3名の計64名が神戸を訪れました。異文化交流と日本への理解を深めることが目的でした。

近鉄四日市駅および大学を出発し、最初の訪問地である「リトルクラフト神戸」へ向かいました。そこではハーバリウム制作を体験し、学生たちは色とりどりの花材を選びながら、自分だけのオリジナル作品を丁寧に作り上げました。

その後、神戸の観光名所である南京町や元町通を散策し、各自で昼食を楽しみました。パスタや中華料理を味わったり、写真撮影や買い物をしたりと、国籍を越えて笑い合う姿が見られました。

最後に訪れたのは、「阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター」です。語り部による震災体験談や展示の見学を通して、自然災害の恐ろしさと命を守るために備えの大切さについて学びました。学生たちは真剣な表情で耳を傾け、深い学びを得た様子でした。

短い時間ながらも、日本文化への理解を深め、災害や命の尊さについて考える貴重な機会となりました。参加した学生にとって、忘れられない大学生活の思い出の一つになりました。



【環境情報学部2年 テッ テッ アウン】

大四日市まつりに参加して

「都市祭礼論」の授業の一環として、2025年7月20日に大入道の組み立て、そして2025年8月3日の四日市祭り本番で大入道山車に参加しました。組み立て作業では地元住民の皆さんと協力し、最終的に山車を完成させることができました。その過程で伝統と技術の重みを感じました。本番では、猛暑の中で山車を運転し、大入道が顔を動かし舌を出すと観客から歓声が上がりました。これにより祭りの熱気を実感することができました。暑さで体力的には大変でしたが、地元の人々とともに努力する楽しさや、祭りに込められた思いを深く味わうことができました。

留学生として、これは貴重な経験となり、教科書だけでは学べない「生きた文化」を体験する機会となりました。



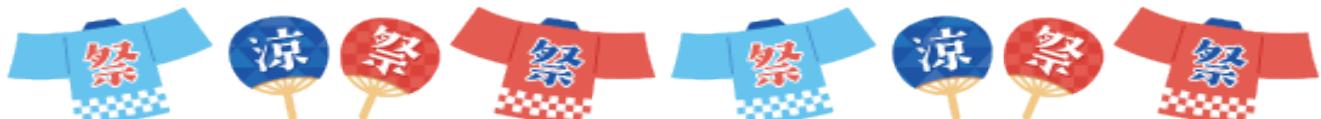
【総合政策学部3年 チョウ ギョウゲイ 】



2025年8月3日と4日、四日市市中心部で「大四日市まつり」が開催され、約20万人が訪れました。私はその中で「大入道の山車」の運行に参加し、地元の人たちと一緒に山車を引いたり押したりしました。大入道の顔が伸び上がる瞬間には観客から大きな歓声が上がり、迫力と楽しさを感じました。初めての参加でしたが、地域の人々が力を合わせて伝統を守る姿に心を打たれました。参加者の一人は「みんなで協力して動かすのが一番の魅力」と語っており、四日市祭りは地域の絆を深める大切な行事だと強く感じました。



【総合政策学部2年 タバ ロジャン 】



編集委員自己紹介 3年生

私は、中国出身のチョウギョウゲイと申します。大学生活も残り少なくなりましたが、卒業までに日本語力と英語力を高め、国際交流の場で積極的に参加できる人材を目指しています。これからも責任を持って取り組み、成長していきたいと思います。

私は、ミャンマー出身のイエーミンと申します。今プログラムを学んでいます。卒業後は、大学で学んだことを生かして、IT会社に就職したいと思っています。



私は、ネパール出身のスペディスマです。映像編集やデザインの授業では、作品を通して自分の考えを形にする面白さを感じています。卒業までに、日本語力と表現力をさらに高め、見る人の心に残る映像を作れるようになりたいです。そして人々の生活を明るくするメディアづくりに関わりたいです。

私は、ネパール出身のティルワビカスです。卒業まで、AIエージェントの研究を通じて実践的な技術を磨き、社会課題の解決に貢献します。良い会社に入るため多くの会社説明会とインターンシップに参加するつもりです。

編集後記



今号が、編集長として最後の留学生新聞となりました。これまでの活動を振り返ると、取材や編集の経験を通して、多くの学びと出会いがあり、本当に貴重な時間だったと感じます。

今号では、新入生歓迎交流会や大学祭、中国とベトナムの文化紹介、留学生オープンキャンパス、卒業後の在留資格ガイダンスなど、留学生生活を支えるさまざまな行事を紹介しました。特に、「大四日市まつり」への参加を通して、文化の違いを越えたつながりを感じました。留学生一人一人の努力を伝えられたことを、大変誇りに思っています。これまで協力してくださった皆様に、心から感謝申し上げます。この経験を大切にし、これからも異なる文化をつなぐ架け橋として成長していきたいと思います。

【総合政策学部 3年 チョウ ギョウゲイ】

